



わたしの目にあなたは価高く、貴く / わたしはあなたを愛し
あなたの身代わりとして人を与え / 国々をあなたの魂の代わりとする。
恐れるな、わたしはあなたと共にいる。

(イザヤ書 43 章 4～5 節)

清教学園の建学の理念をご存知でしょうか。

神なき教育は知恵ある悪魔をつくり

神ある教育は愛ある知恵に人を導く

です。私はこれを初めて見た時「悪魔」というワードに驚いたのを今でも覚えています。では、ここに出てくる「愛ある知恵」とは何のことでしょうか。今回少し深掘りしていきましょう。

よく、キリスト教では愛を「無償の愛」とか「無条件の愛」と言ったりしますが、これを聞いて一回で理解できた人はいたでしょうか。私はわかりませんでした。唯一分かったことは「恋愛」の愛とは違うということだけでした。

もし私がこのキリスト教の愛を別の言い方をするなら「大切にすること」と表現します。相手が相手であることに気づき、あなたは生まれて生きていてだけで、素晴らしいと認めること。これが愛、大切にすることの一つの形だと思えます。

勉強ができるから偉い、運動ができるからすごい、言われたことを素直に聞くからいい子。こんなふうには、人間はそこにある事実に対して「評価」をしてしまいます。「勉強ができるから偉い」には、一見褒め言葉のようですが、勉強ができなければすごいという評価が含まれています。それが楔(くさび)となって、究極的には満点以外はダメだ、満点を取れなかったから恥ずかしいと考えるようになってしまいます。そしてそれに加えて、「だから自分はダメな人間なのだ」と自分で自分を「評価」してしまいます。そうして知らないうちに、自分を卑下し、マイナス評価のレッテルを貼っています。

この「勉強ができるから偉い」は、条件付きの愛です。人間が自分もしくは相手に対して「評価」しているものは、その時点で無条件の愛ではないのです。条件付きの愛は、その条件を満たせなくなった瞬間に信じることでなくなる関係になってしまいます。

神様は「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」とおっしゃいます。あなたが価高く、貴いのは、あなたが生まれ、今も生きているからです。勉強ができなくても、運動ができなくても、素直でなくても、あなたがあなただから愛し、常に一緒にいてくださるのです。

「何ができなければ自分に価値はない」と思い続ける必要はないです。何もできなくても自分は自分であるということ、そんな自分をまず自分が愛しているということを認めてください。あなたはあなただからが故に愛されているのですから。

さあ、11月になりました。あと1ヶ月後の12月1日からアドヴェントが、そして25日には待ちに待ったクリスマスがやってきます。クリスマスは神様が私たちの身代わりとしてイエスを与えてくださったことをお祝いする日です。私たちは神様の目から見て価高く、貴いものだという事、そして神様は私たちと共にいるということ胸に刻んでイエス様の誕生をお祝いしましょう。

